

## 知床半島ヒグマ対策連絡会議の対応状況

## ○ 令和5年度第1回知床ヒグマ対策連絡会議

- ・ 日時：令和5年6月15日（木）14:00～16:30
  - ・ 場所：知床森林生態系保全センター
  - ・ 出席機関：環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団
- ※ 事務局は、年度ごとに行政機関の持ち回りで担当し、令和5年度の事務局は林野庁。

## ○ 開催目的

- ・ 令和4（2022）年4月に策定された第2期知床半島ヒグマ管理計画に基づいた年次計画（アクションプラン）の実施状況等についての確認及び情報共有。

## ○ 議事概要

## (1) 知床半島ヒグマ管理計画及びアクションプランの実施について

- ・ 令和5年度アクションプラン方策8及び39における図上演習の取り扱いについて、連絡会議として北海道で実施する「令和5年度（2023年度）ヒグマ保護管理技術者育成研修事業」へ参加することとなった。
- ・ 管理計画の目標達成状況について、③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数以外の目標については単年度目標を達成していることが報告された。
- ・ 市街地への出没時等緊急性の高い捕獲等対応について、関係機関との連絡調整等が円滑に進むような体制を確保することが改めて確認された。
- ・ アクションプランの令和4年度の実施結果について確認された。
- ・ ヒグマの適正管理に資する調査・研究の令和4年度の実施結果について確認された。

## (2) 知床ヒグマ対策連絡会議の運営について

- ・ 知床ヒグマ対策連絡会議の設置要綱（改訂案）について、検討事項、構成員等必要な事項を整理するための意見照会があった。
- ・ 知床半島に生息するヒグマの個体識別に係る整理案について、DNAの分析、経費分担等に関する意見照会があった。

## (3) 特定管理地（公園内車道沿線）におけるヒグマ出没時の対応の試験的変更について

- ・ 斜里町側の幌別、岩尾別等の車道沿いの特定管理地におけるヒグマ出没時の対応については、2019年度からの対応方針の変更に起因する重大なトラブルや危険事例は発生していないことから、試行的に実施していた「情報発信と注意喚起」に重点を置く対策を本運用することとなった。

## 【経過】

特定管理地（公園内車道沿線）のヒグマ対策活動の方針について、ヒグマを忌避学習付けすることが困難であることや、道路沿いにおける銃器の使用が困難な状況になったため、ヒグマを人から離す「追い払い」から人がヒグマに近づかないようにする「情報発信と注意喚起」に重点を置く対策を2019年度より試行的に実施していた。

- ・ 羅臼町：実質的に本格運用していることや知床峠付近で確認されている問題グマとの因果関係ははっきりしていないことから、反対はしないが、引き続き危険事例や問題行動（クマ・人ともに）の把握に努めてもらいたい。

(4) 各関係機関からの報告・情報提供

- ・ 標津町：実弾やゴム弾の入手が困難となっていると情報された。
- ・ 斜里町：令和4年度の連絡会議において、銃器を用いた捕獲が困難な場所では斜里町も箱ワナによる捕獲も併用すべきとの意見が出されたところであるが、ハンターの高齢化や技術継承が進んでいない昨今においては、斜里町内での箱ワナの運用が難しいといった課題があるものの、箱ワナによる捕獲を排除してはいないとの考えであることを補足した。
- ・ 知床財団：「第2期ヒグマ管理計画にけるゾーニング図」について、斜里町のオチカバケ川以南がゾーン3に指定されているが、ゾーニング図の色分けがオタモイ川以南となっていること（P14）、フレペの滝遊歩道の一部が特定管理地に指定されているが、ゾーニング図では、ゾーン2に色分けされていること（付-16 及び付-17）が情報提供された。また、現行の問題個体の判定基準（行動段階 1+）について、出没したゾーンと当該個体の行動段階の組み合わせに応じて、問題個体の判定を行うべきとの意見があった。